

団体名： 財団法人 がんの子供を守る会
事業名：小児がん児童・家族への慰問活動事業

本事業は小児病棟に入院している小児がん等の子供たち及びその家族への訪問活動として病院でアトラクションを実施し、その後、小児病棟へ個別訪問を行ったもので、辛く、過酷な入院生活を送る患児やその家族に対し、また、それを見守る医療関係者たちにも一時の安らぎを与えた訪問活動になっている。1回の訪問活動による受益者は少数ではあるが、深いニーズに応えた事業であり、病棟の中は楽しい時間が共有され、患児に希望と勇気を与え、また、家族と医療関係者とのコミュニケーションが円滑になったことは高く評価できる。

一方、本事業はがんの子供を守る会の数多くある事業の中でも、厳しい治療と闘っている子供達を直接その対象とした得意な活動であり、ひとときの楽しい時間であるばかりでなく、成長過程にある多感な子供たちに希望を届ける事業ともなっている。

その取り組みを一過性のものに終わらせないために、とりわけ実施されていない地域においては、親の会や支部の設立を通し、自主的な活動として継続していくことが望まれる。

<会計評価>

関係書類、証拠書類、会計帳簿等の整備状況は良好である。

<事業プロセスの評価>

<優れている点>

- ・当会は、小児がんの子供と家族に対して様々な活動を行っているが、本事業は、直接、患児に生きる希望を与える事業である。 P 9
- ・訪問活動を受け入れる病院を一つでも増やせるよう、熱意をもって開拓している。
- ・クラウンドクター運営委員会(8名)は、経験のあるクラウンドクターボランティアを中心に構成されている。
- ・本部と支部の活動は、役割分担が明確になっており、事業がスムーズに運営出来ている。
- ・ソーシャルワーカー会議及びスタッフ・ボランティア会議が、それぞれの視点を活かした報告をクラウンドクター運営委員会に提出し、訪問活動の改善・見直しをおこなっている。
- ・アトラクションの委託先は、本事業の目的や実施方法を十分に理解し、細心の配慮をしているため、無事故である。

<改善にむけての課題>

- ・訪問活動を受け入れる病院の開拓を通し、活動拠点としての支部発足の動きを促進させることが望まれる。
- ・アトラクション終了後には、患児をはじめ、家族、医療関係者を対象にアンケート調査を行い、今後の活動に役立てることが望まれる。

<事業成果の評価>

<優れている点>

- ・アンケート調査によると「子供も親も元気がもらえた」「患児、家族、病棟スタッフがひとつになれた」「辛い入院生活を一時でも忘れられた」などの好評を得た。
- ・オープンスペースにおけるアトラクションだけでなく、病床にいる患児たちへの個別訪問は、患児たちががんばろうという気持ちを引き出している。
- ・アトラクションを体験してからは、今まで受身であった患児が担当医に自分の意思を伝える姿が見られた。また、親同士の横のつながりができ親の会の設立がされている。
- ・当会の活動を知らなかった患児の親たちが、本事業の実施により、相談事業、療養助成や宿泊施設の利用に繋がっている。(広報効果)
- ・本事業を実施により、医師の呼びかけで親の会や支部の設立に繋がった。
- ・治療優先の観点からこれまで受け入れに難色を示していた病院が、本事業をきっかけに患児に係るボランティアを受け入れるようになった。

<改善にむけての課題>

- ・本事業が一過性のものに終わらせないために、とりわけ実施されていない地域においては、親の会や支部の設立を通し、自主的な活動として継続することが望まれる。

<資金効率>

事業費総額に対する資金効率の観点からは、ほぼ予算どおりに執行されているため、概ね効率的に使用されているものと思われる。

<今後の方向性>

訪問活動が、患児に及ぼす心理的効用を受け入れた病院から発信してもらう一方で、訪問活動により子供たちが喜ぶ様子を実際に病院関係者に見てもらおうよう積極的に働きかけ、新規受入れ病院の開拓することが望まれる。